



大久保小だより



平成 29 年 12 月 22 日 第 10 号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関 2 1

0 4 8 (8 5 4) 7 6 3 6

男子 154 名 女子 123 名 計 277 名

学校教育目標 **かいっぱい かしく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

～ 「やればできる」に込めた願い ～

校長 相川 光彦

平成 29 年「酉年」も残すところ僅かとなりました。子どもたちは、さまざまな行事や学習などに精力的に取り組む姿を見せてくれました。

12月2日(土)に行った持久走大会・PTAバザーでは、大変お世話になりました。

持久走大会は、天候にも恵まれ、温かな日差しの中で十分に力を発揮できたと思います。子どもたちは、全力で走りきったという充実感をもつことができたようです。

午後のPTAバザーでは、色々なイベントや飲食コーナーがあり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。私も、サイエンスコーナーでの『クリップでポン』は、とても楽しくできました。保護者の方も、喜んでくれたのがとてもうれしかったです。

地域の方や祖父母の方など大勢の方に来校いただきました。本校は、お陰様で日頃から地域の方が子どもたちの登下校の様子を見ていただいていたたり、地域の行事では、声をかけて頂いたりするなど触れ合う機会が多くあります。本当に感謝しております。

今年の合言葉「やればできる」に込めたのは、子どもたちの潜在能力をもっと引き出したいという想いです。

多くの人は、大変なことから逃げたくなります。できるだけ後回しにしたいくなります。大久保小の子どもや先生たちも同じです。できれば、楽なほうがよいに決まっています。

「やればできる」そりゃ、必死に努力するんだから、できるに決まっているわけですし、「やるから、できる。やらないからできない」のは、みんなが分かっていることです。しかし、たった十年くらいしか生きていないはずの若者たちは、「どうせ、自分には、できない」とか「やっても、意味ないし」「面倒くさい」などとすでに人生を悟ってしまっているところがあります。まだまだ、人生これからだと思っている者としては、「何も初めてもいないのに弱音を吐くなよ」「やる前にネガティブな答えを出すなよ」と言いたいのです。それが、「やればできる」なのです。そして、上杉鷹山公の「為せば成る・・・」に繋がるのです。

努力しているというのは、他の人が見て判断してくれるものなのだとすることを大人になって知りました。自分は、努力していると思っているのは、ただの自己満足。自分なりに精一杯という気休めなのだとということをもっと早く理解できていたらと思います。

若いうちは、自分の「やるべきこと」「やりたいこと」にがむしゃらにとことん突き進んでほしい。きっと女神がほほ笑んでくれると信じています。

困難に立ち向かい乗り越えるには、気力、体力と時の運が必要です。「運が、よい。悪い」といいますが、女神がほほ笑むのには、きっと訳があるのだといつも感じています。

年末年始は、子どもたちにとっては、大掃除やお正月の準備、年始の行事やあいさつなど貴重な体験学習の時間です。今年のお垢や埃などリセットして、<戌年>が素敵な1年になるようこの冬休みを過ごしてほしいと思っています。本年のご支援・ご協力ありがとうございました。平成30年も、さらによい1年と思えるよう私たち教職員も保護者と力を合わせて、子どもたちのよさを引き出し、「誉めて伸ばす教育」を推進して参ります。